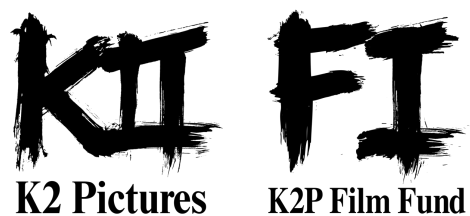


コンテンツ戦略ワーキンググループ 発表資料



株式会社K2 Pictures

2025年3月

K2P Film Fundは、コンテンツ産業を活性化させ、グローバル化させることを目的とした、国内映画製作における新たな金融商品です。

K2 Picturesのビジョン

日本映画制作の
担い手のために
新しい生態系をつくる

世界基準の映画で
より多くの外貨を
獲得する

金融商品化 (=ファンド)

マネーの総量が増える



外貨獲得

金融商品化することにより

- **映画業界外の資金**を呼び込む
- **海外マネー**を呼び込む
- デット提供者にアクセスしやすくなり、
デット活用可能性が高まる

ファンド組成を工夫することにより

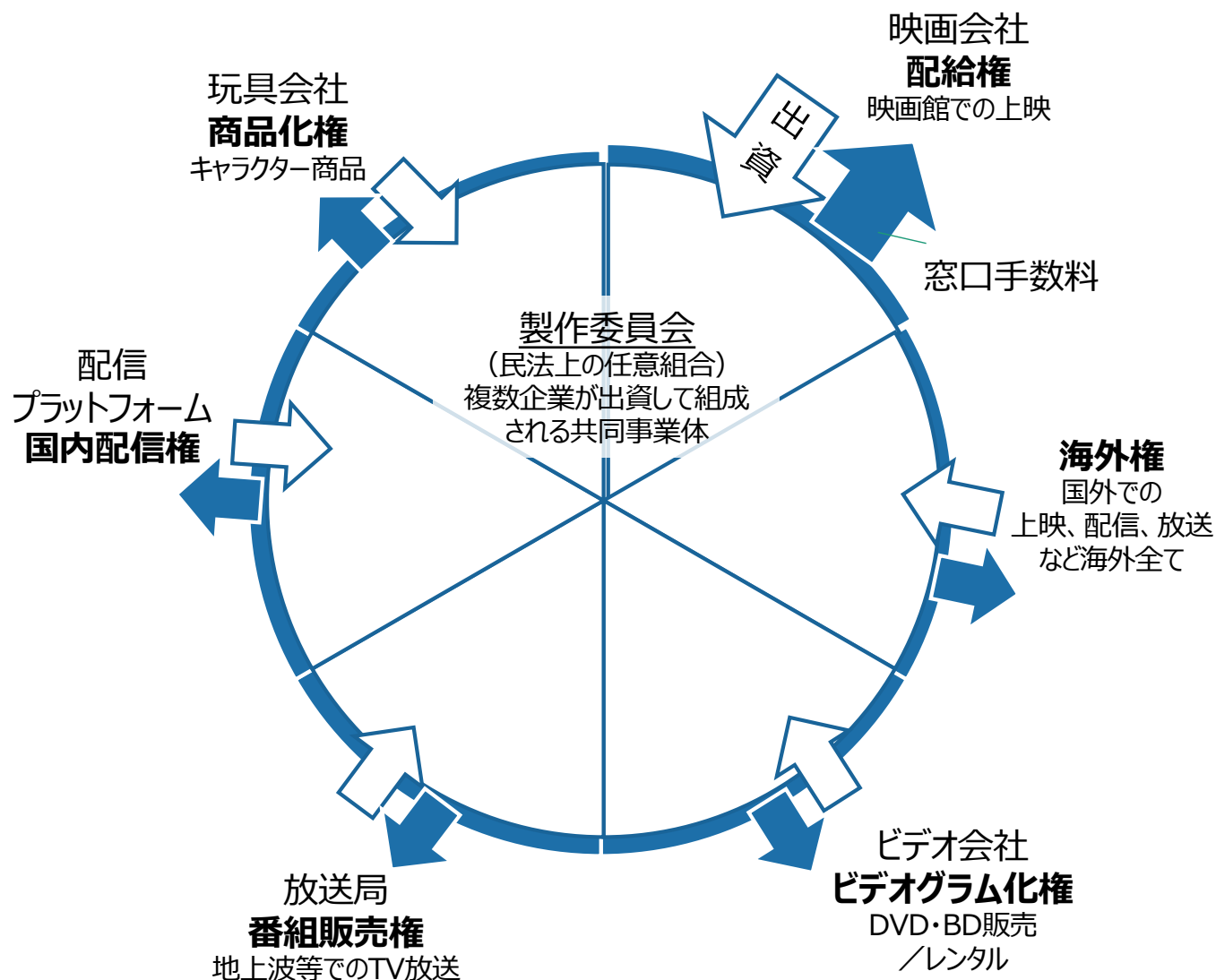
- 再投資を認めて拡大再生産する
サイクルができる
- 複数の映画を製作するファンドにする
ことで**投資リスクを低減**する

マネーの総量が増えることで

- コンテンツ開発環境／クリエイターを
取り巻く環境が向上
- コンテンツ品質が上がる&担い手の
確保に繋がる（サステナブルなエコ
システム）
- **国際競争力向上**へつながる

既存スキーム（製作委員会方式）：メリットとデメリット

製作委員会 概念図



メリット

- 国内のエンタテインメント業界ないしは映像製作を生業とするプレイヤーが委員会構成員となるため、各企業の強みを活かせる
- 委員会構成員は、窓口手数料を得ることで、投資リスクを緩和できる
- 複数の委員会構成員が出資することで、リスク分散ができる

デメリット

- 全会一致が原則であることから、反対意見の出にくい無難な判断になりやすい
- 委員会構成員は、国内のエンタテインメント業界ないしは映像製作を生業とするプレイヤーに限られ、外部からの参入障壁が高い
- 委員会構成員は窓口手数料収入見込額をもとに出資額を決めるため、製作規模が大きくならない
- 製作委員会は民法上の任意組合であり、非居住者が委員会構成員になった場合、法人税及び消費税の申告義務が生じることから、海外からの参入障壁が高い

商 号	株式会社K2 Pictures
設 立	2023年8月1日
代表取締役	紀伊宗之
取 締 役	香田哲朗、シュミット・フレデリック・カツロ、沢田渉、 小出大樹、湯口隆明、高橋大典、木原未緒
事 業 内 容	企画、プロデュース、製作、配給、その他ライセンス等、映像に関わる全て https://k2pic.com/